TOYOTA

株主の皆様へ

第134期　期末報告書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

株式会社 豊田自動織機
TOYOTA INDUSTRIES CORPORATION
（証券コード　6201）

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。第134期期末報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申しあげます。

国内外の景気が回復に向かうなか、当社グループは、品質第一に徹してお客様の信頼におこたえいたしますとともに、各市場の回復の動きに的確に対応して、販売の拡大に努めてまいりました。また、東日本大震災やタイの洪水などによる生産活動への影響を最小限にとどめるよう、柔軟な稼動対応を行ってまいりました。その結果、当期の業績につきましては、増収増益を達成することができました。

当期の配当金につきましては、昨年11月に中間配当金を1株につき25円お支払いいたしましたが、期末配当金につきましても1株につき25円とし、年間としては前期と同額の1株につき50円とさせていただきました。

今後の経済の見通しにつきましては、景気の回復傾向が続くと見込まれますものの、欧州の債務危機や米国の雇用情勢の悪化などによる景気の下振れのリスクや、原油などの原材料価格の高騰、為替相場の動向などの不透明な要因があり、企業を取り巻く環境は引き続き厳しいと予想されます。

こうしたなか、当社グループは、いかなる環境の変化にも速やかに対応できる、ゆるぎない企業体質実現のため、事業構造、コスト構造改革を進めてまいります。また、各国・各地域において、最適なコスト、納期を実現する生産・供給体制を構築し、お客様に幅広いサービスを提供するためのバリューチェーンの拡大にも取り組んでまいります。

中長期的には、品質第一を基本に、環境・安全への対応と国際競争力の向上を重要課題としてとらえ、お客様目線に立った商品開発、先進技術開発を推進してまいります。2011年10月、当社は、次の10年に目指す姿を定めた2020年ビジョンおよび中期経営計画を策定いたしました。2020年ビジョンでは、お客様のニーズを先取りする商品・サービスを継続的に提供することにより、世界の産業・社会基盤を支え、豊かな生活と温かい社会づくりに貢献することを目指しております。また、中期経営計画では、2015年度までの具体的な方策をビジネスユニットごとに定め、2020年ビジョンに向け、当社グループが一丸となった取り組みを進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

2012年6月

取締役会長 伊村 晟　取締役社長 豊田 鐵郎

目 次

株主の皆様へ …… 1
連結業績の概況 …… 2
事業別の概況 …… 3.4
トピックス …… 5.6
連結決算 …… 7.8
連結貸借対照表の概要 …… 7
連結株主資本の変動について
連結損益計算書の概要 …… 8
連結キャッシュ・フロー計算書の概要
株式の状況 …… 9
会社の情報 …… 9
株主メモ …… 10

連結業績の概況

当期の経済情勢を概観しますと、世界経済は、中国をはじめとしたアジア各国での経済成長に加え、米国での景気回復により、全体では回復が続いてまいりました。国内におきましては、東日本大震災の影響や、円高による厳しい状況のなかで、個人消費、設備投資に持ち直しの動きが見られ、緩やかな足取りながら、景気は改善してまいりました。

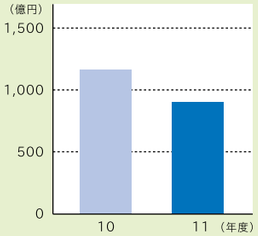
このような状況のなかで、当期の売上高は、前期を635億円(4%)上回る1兆5,433億円となりました。利益につきましては、人件費の増加、為替変動による影響などがありましたものの、グループあげての原価改善活動の推進に加え、産業車両セグメントの売上げの増加などにより、営業利益は前期を13億円(2%)上回る700億円、経常利益は前期を69億円(9%)上回る808億円となりました。当期純利益につきましては、ウースター テクノロジーズ株式会社の子会社化に伴い、段階取得に係る差益45億円を、特別利益として計上したことなどから、前期を113億円(24%)上回る585億円となりました。また、1株当たり当期純利益は、前期を37円(24%)上回る188円、1株当たり純資産は、前期末を362円(11%)上回る3,662円となりました。

事業別の概況

物　流

物流部門におきましては、物流受託事業を行う子会社でありました株式会社通販物流サービスの保有株式をすべて売却したことにより、売上高は前期を148億円(14%)下回る929億円となりました。

売上高



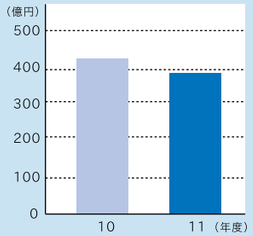
集配金・売上金管理サービス

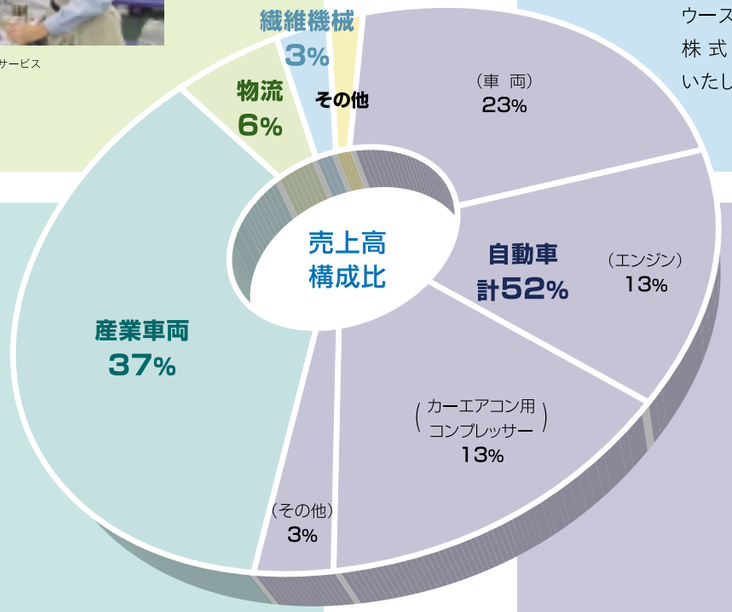
繊維機械

繊維機械部門におきましては、エアジェット織機が中国向けで減少したことにより、売上高は前期を42億円(10%)下回る385億円となりました。なお、事業をさらに強化するため、2012年2月にスイスのウーステー テクノロジーズ株式会社を子会社化いたしました。

JAT710
エアジェット織機

売上高



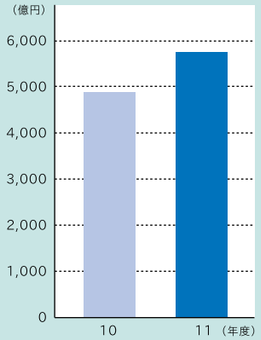


産業車両

産業車両部門におきましては、アジアを中心とする新興国市場をはじめ、欧州、北米、日本の各市場で、総じて回復が続きました。そのなかで、各市場の状況に応じた、生産・販売体制の強化や商品投入を行い、主力のフォークリフトトラックが国内・海外ともに増加したことにより、売上高は前期を801億円(16%)上回る5,707億円となりました。

GENEO-B
カウンタータイプ電動フォークリフト

売上高



自動車

自動車部門におきましては、国内市場が落ち込んだものの、アジア市場の成長や北米市場の回復により、世界市場は拡大いたしました。こうしたなかで、東日本大震災の影響やタイの洪水の影響がありましたが、生産活動の維持・挽回に努めた結果、売上高は前期並みの8,031億円となりました。

このうち車両につきましては、RAV4・ヴィッツが減少したことにより、売上高は前期を211億円(6%)下回る3,544億円となりました。

エンジンにつきましては、主にKD型ディーゼルエンジンが増加したものの、AR型ガソリンエンジンが減少したことにより、売上高は前期並みの1,971億円となりました。

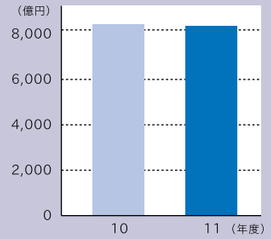
カーエアコン用コンプレッサーにつきましては、国内・海外ともに増加したことにより、売上高は前期を147億円(8%)上回る2,065億円となりました。

ヴィッツ

KD型ディーゼルエンジン

トヨタ プリウス搭載
カーエアコン用電動コンプレッサー ES14

売上高



トピックス

01 米国にコンプレッサー部品の生産会社を設立

2012年2月、米国ジョージア州に、北米市場向けカーエアコン用コンプレッサーの部品を生産する新会社「Toyota Industries Compressor Parts America, Co.（TICA）」を設立しました。

近年、北米市場では省燃費に優れた可変容量タイプの需要が伸びており、現地のコンプレッサー生産会社では同タイプの増産を予定しています。これに対応し、TICAからコンプレッサー生産会社へ部品を供給することで、現地調達率の向上をはかり、コスト競争力を高めていきます。

02 新興国における産業車両の生産体制を強化

トヨタ インダストリアル イクイップメント ベトナム

フォークリフトの需要が増加する新興国において、当社は生産体制の強化に努めています。中国では、広東省佛山市にローリフト、遼寧省大連市に小型牽引車の生産工場を設立し、それぞれ2012年1月および2月に生産を開始しました。

また、ベトナムのトヨタ インダストリアル イクイップメント ベトナム（TIEV）では、電動フォークリフトのキーコンポーネントであるモーターの生産を2012年4月に開始し、世界の各地域にある当社のフォークリフト組立工場へ供給しています。

03 次世代の物流EV「e-Porter」を開発

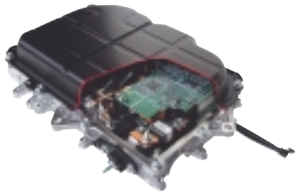
当社は、スマートモビリティ社会の物流効率化とCO_2排出量削減に貢献する「物流EV『e-Porter』」を開発し、次世代物流車の方向性を提案するコンセプトカーとして、2011年12月に開催された東京モーターショーに出展しました。

e-Porterには、当社の開発におけるキーワードである3E（Environment, Ecology & Energy）の考え方に基づき、事業部門の枠を越えて省エネ、電動化、軽量化の技術を融合させています。

04 DC-DCコンバーターの累計生産台数400万台を達成

2012年2月に、当社はハイブリッド車用DC-DCコンバーターの累計生産台数400万台を達成しました。

当社のDC-DCコンバーターは、2000年のトヨタ初代プリウスへの採用後も一層の小型・高効率化を進め、ハイブリッド車の普及とともに生産台数を伸ばしてきました。プリウスのほか、プリウスPHVやアクアなどにも搭載されています。



05 国内外の技能五輪大会で当社からの出場選手が活躍

当社は「モノづくりの基本は人づくり」の考えのもと、次代を担う人材の育成に取り組んでいます。その一環として、高度技能の伝承をねらいに、2000年から技能五輪に挑戦しています。

2011年12月に静岡県、滋賀県、長野県で開催された第49回技能五輪全国大会において、当社からは15選手が6種目に出場し、全種目でメダルを獲得しました。このうち、メカトロニクス部門では、姫野博選手・山村了選手のペアが金メダルを獲得しました。

また、海外では、2011年10月に英国のロンドンで開催された第41回国際技能五輪競技大会で、当社から日本代表として溶接部門に出場した稲木利保選手が敢闘賞を獲得しました。

左から山村了・姫野博両選手

06 インドで青少年のスポーツ活動を支援

インドにおける自動車部品および繊維機械の生産子会社であるキルロスカ トヨダ テキスタイル マシナリー（株）は、毎年、地元の小学校で開催されるスポーツ大会にトロフィーやメダルを寄付するなど、青少年のスポーツ活動を支援しています。2011年度は、地元高校におけるインドの国技カバディの選手にユニフォームの寄贈も行いました。

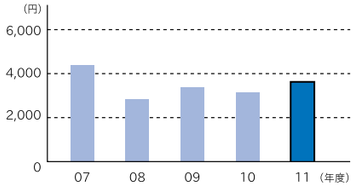
連結決算

■連結貸借対照表の概要

（単位:百万円）

	前期末 2011年3月31日現在	当期末 2012年3月31日現在
資産の部		
流動資産	670,893	769,356
固定資産	1,810,559	1,887,628
資産合計	2,481,452	2,656,984
負債の部		
流動負債	511,944	579,527
固定負債	893,568	879,615
負債合計	1,405,512	1,459,142
純資産の部		
株主資本	547,968	591,367
その他の包括利益累計額	480,248	550,112
新株予約権	2,132	2,310
少数株主持分	45,589	54,051
純資産合計	1,075,939	1,197,841
負債純資産合計	2,481,452	2,656,984

1株当たり純資産



■連結株主資本の変動について（2011年4月1日から2012年3月31日まで）

2012年3月末株主資本残高　5,913億円（前期末比 +434億円）

（変動額の主な内訳）
・当期純利益　585億円
・剰余金の配当　△155億円

■連結損益計算書の概要

（単位:百万円）

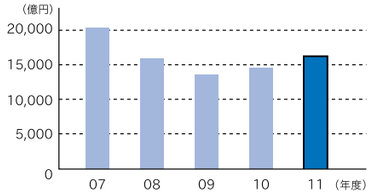
	前期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	当期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで
売上高	1,479,839	1,543,352
営業利益	68,798	70,092
営業外収益	32,044	34,709
営業外費用	26,930	23,936
経常利益	73,911	80,866
特別利益	—	4,599
特別損失	4,631	—
当期純利益	47,205	58,594

■連結キャッシュ・フロー計算書の概要

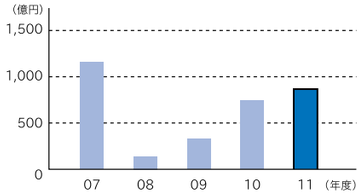
（単位:百万円）

	前期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	当期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	153,661	101,718
投資活動によるキャッシュ・フロー	△187,574	△9,403
財務活動によるキャッシュ・フロー	△85,728	10,279
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,382	△1,348
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△122,024	101,244
現金及び現金同等物の期首残高	317,590	195,566
現金及び現金同等物の期末残高	195,566	296,811

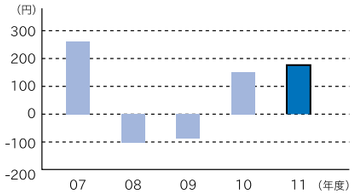
売上高



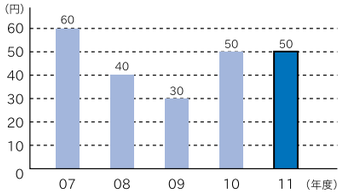
経常利益



1株当たり当期純利益



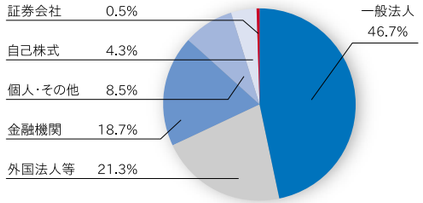
1株当たり配当金



株式の状況 (2012年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,100,000,000株
発行済株式総数	325,840,640株
株主数	21,632名

所有者別株式の状況



大株主の状況

株主名	持株数(千株)
トヨタ自動車株式会社	76,600
株式会社デンソー	29,647
東和不動産株式会社	15,697
豊田通商株式会社	10,125
日本マスタートラスト信託銀行株式会社〈信託口〉	10,118
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社〈信託口〉	6,955
日本生命保険相互会社	6,735
アイシン精機株式会社	6,578
サード アヴェニュー ヴァリュー ファンド	5,143
豊田自動織機従業員持株会	5,066

(注)上記のほか、当社が所有している自己株式14,153千株があります。

会社の情報

設立 1926年11月18日
資本金 804億円(2012年3月31日現在)
従業員数 連結43,516名、単独12,983名(2012年3月31日現在)
本社所在地 〒448-8671 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地 TEL 0566-22-2511(代表)

■取締役(2012年6月14日現在)

代表取締役会長 伊村 晟
代表取締役副会長 吉田和憲
代表取締役社長 豊田鐵郎
代表取締役副社長 三矢金平
代表取締役副社長 安形哲夫
代表取締役副社長 山口千秋
専務取締役 関森俊幸
専務取締役 佐々木一衛
専務取締役 森下洋司
専務取締役 古川真也
専務取締役 大西 朗
専務取締役 鈴木雅晴
取締役 加藤正文
取締役 佐々木憲夫
取締役 小河俊文
取締役 大西敏文
取締役 張 富士夫

■監査役(2012年6月14日現在)

常勤監査役 吉田成毅
常勤監査役 石川覚雄
監査役 渡辺捷昭
監査役 三田敏雄
監査役 ﾊﾝｽ･ｭｰｹﾞﾝ･ﾏﾙｸｽ

■執行役員(2012年6月14日現在)

常務執行役員 小川隆希
常務執行役員 野崎晃平
常務執行役員 大塚 幹
常務執行役員 山本 卓
執行役員 土本幸久
執行役員 浅井裕章
執行役員 伊藤 天
執行役員 山岸俊哉
執行役員 原田淳一
執行役員 岡本幹彦
執行役員 藤原啓税
執行役員 村田康弘
執行役員 水野陽二郎
執行役員 川口真広
執行役員 豊田 晋
執行役員 石崎裕二
執行役員 原 敬三
執行役員 栗本清次
執行役員 國遠正章
執行役員 志水敏彦
執行役員 伊藤浩一

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
配当金支払株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施するときは9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上記連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711

単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社の株式は1単元が100株となっており、単元未満株式(100株未満)については市場で売買できません。
ご所有の単元未満株式の売買をお考えの場合は、以下の制度をご利用ください。

- 単元未満株式買取制度 単元未満株式を当社にご売却いただくことができます。
- 単元未満株式買増制度 単元株式(100株)にするために、不足分を当社からご購入いただくことができます。

お手続きの詳細につきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)までお問い合わせください。

株式に関するお手続きのお問い合わせ先

株式に関する各種お手続きの窓口につきましては、株主様の株式の所有状況によって異なりますので、ご注意ください。

ご所有されている株式の口座区分	お問い合わせ先
特別口座	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)
証券口座	口座を開設されている証券会社 ※

※未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。

株式会社 豊田自動織機

〒448-8671 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地
TEL 0566-22-2511（代表）　FAX 0566-27-5650
ホームページ　http://www.toyota-shokki.co.jp/

	①			②	③

表紙の写真

① 2011年12月に静岡県などで開催された第49回技能五輪全国大会での競技の様子
② 世界的に権威のある工業デザイン賞とされる、ドイツのiFデザイン賞の金賞を受賞した小型電動フォークリフト「BT Optio Lシリーズ」
③ 北米市場で需要が伸びている可変容量型コンプレッサー
車内外の温度やエンジンの状況により冷却能力を適正に自動制御し、省燃費に貢献します。（写真は6SEU14型）